HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	ご退職記念号に寄せて
著者	小松，かおり；KOMATSU，Kaori
引用	北海学園大学学園論集(193)： x　ix-　i
発行日	2024-03-27

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

ご退職記念号に寄せて

人文学部長　小　松　かおり

本学人文学部日本文化学科の大谷通順先生は，2024 年 3 月 31 日をもって長く教鞭を執られてきた北海学園大学を定年退職されます。学園論集第 193 号が退職記念号として発刊されるにあたり，大谷先生の本学への多大なご貢献に感謝の意を表し，送別の辞を述べさせていただきます。

大谷通順先生は，1985 年 7 月に北海道大学大学院文学研究科博士課程中国文学専攻中退後，北海道大学助手（文学部）などを経て，1989 年 4 月に北海学園大学教養部に講師として着任されました。1992 年 4 月に助教授，同年より 1 年間の北京日本学研究センター主任教授補佐を経て 1997 年 4 月には教授となり，教養部廃止にともない，1998 年 4 月に人文学部（日本文化学科）に転属されました。大学院文学研究科においても 2006 年より教鞭を取られ，以降 18 年間にわたり，一般教育科目に加え，人文学部と大学院文学研究科の専門教育に携わってこられました。

先生の研究テーマは，主に近代小説とは異なる原理を有する清代末年以前の小説，ダイスとカードを用いた伝統的な賭博ゲーム，近代日本において「支那通」と称された中国事情に通じた人びとの中国理解と生きざまをとおした，中国文学・文化ならびに日本におけるその受容のあり方の解明です。先生のご研究は，中国語・漢文に対する十全な素養はもとより，中国史に対する該博な知識，人間に対する深い洞察力，事物・事象の原理を見極めようとする哲学的思考に支えられたもので，中国・日本・アメリカの史資料を博捜して近代麻雀の形成・成立・展開を論じた『麻雀の誕生』（大修館書店，2016 年）をはじめ，著書 7（単著 1，共著 6）・翻訳書 1・教科書 2（共著 2）・論文 17・口頭発表 20・その他 16 篇の業績に結実しています。

教育では，30 年以上の長きにわたって本学の中国語教育において中心的な役割を担ってこられました。授業では，一般教育科目において中国語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ，中国語文化Ⅰ，中国語文化演習Ⅰ・Ⅱ，中国語言語文化演習Ⅰ・Ⅱ，世界の言語と文化，教養ゼミ，人文学部の専門科目において人文学基礎演習，人文学演習 A・B，中国文学Ⅱ，大学院文学研究科において比較文学特殊講義Ⅱなどを担当され，中国語ならびに中国文学・文化の深い知識と理解に支えられた授業を展開することで，学生をつねに啓発してこられました。また，先生は，本学の一般教養語学カリキュラムのため，中野徹・中根研一両氏との共著で，2012 年に郁文堂より『ほあんいん！中国語〈基礎篇〉』を上梓されました。2015 年刊行の同改訂版は，現在でも中国語基礎Ⅰ・Ⅱの教科書と

して用いられています。

また，先生が本学の国際交流に果した役割は，特筆すべきものがあります。先生は，長らく学内における中国語研究会の顧問として学生の組織運営を助け，北京理工大学への語学研修旅行を実施するとともに，機関誌『北海中文』の刊行，夏・冬合宿の開催，検定試験対策の課外特訓，読書会など多岐にわたる献身的な課外教育を実施されました。とくに北京理工大学には，1990 年度の第 2 回から 2023 年度の第 21 回まで，263 名もの学生の派遣に従事し，自らも 9 度にわたって引率者を務められ，同大学との友好関係を築きあげられました。この間，中・長期の留学に出た学生 34 名，中国関連の会社・組織に就職した学生 20 名を輩出したことは，先生が優れた教育者でもあったことを示しています。先生が着任された 1989 年には天安門事件が起こり，以降，中国の大学との関係は困難をともなうものとなりましたが，先生は着実に交流を続けるとともに，粘り強く協定の道を探られました。2022 年に北海学園大学と北京理工大学留学生センターとの間で「学生研修要領覚書」が締結されたことは，ひとえに長年にわたる先生のご尽力の賜であるといっても過言ではありません。

大学運営では，2017 年 4 月から 2022 年 3 月まで，前任者の残任期間を含めて 2 期 5 年にわたって図書館長を務められたことが顕著な業績として挙げられます。先生は，従来の事業を継承しつつ，図書館狭隘化対策，蔵書登録問題，除籍図書の処理問題，4 階アクティブ・エリアの整備，北駕文庫の貴重図書・資料の管理と利用促進，さらには新型コロナウイルス感染対策の一環としての図書館の遠距離利用に取り組まれ，その重責を全うされました。このほか，共通教育委員長・国際交流委員会中国協定校委員長・協議員・入試委員・学生委員・教務委員・全学カリキュラム委員・学術研究会委員など重要な委員長・委員を歴任され，いずれの職にあっても大学・学部ならびに共通教育・国際交流が直面する課題に真摯に取り組まれ，よくその責任を果たされました。

学会活動としては，日本中国学会・中国人文学会・The International Playing-Card Society に所属され，学会を牽引するとともに後進の育成に尽力されました。また，2006 年から 2015 年にかけて，北海道における中国語教育者の集いである中国人文科学研究会の事務局を担われ，学術研究報告・特別講演会・語学教育の理論と実践の取り組み・ニュースレターの発行に従事されました。

社会貢献としては，2013 年を除き，2006 年から 19 年にかけて「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北海道予選大会（札幌大学孔子学院主催）の審査員，2012・16・17 年に「漢語橋」世界中高生中国語コンテスト北海道予選大会（札幌大学孔子学院主催）の審査員，2012 年に北海道地区高校生中国語発表会の審査員をそれぞれ務めるかたわら，公益財団法人札幌国際プラザや札幌大学孔子学院との協働，人文学部と AIRDO との教育連携協定に基づく中国講座の開催などによって，北海道における中国語・中国文化の普及ならびに中国との国際交流に力を尽くされました。この間，先生のご指導によって，2005 年と 2022 年には，本学の学生が「漢語橋」世界大学生中国語コンテストの世界大会決勝に進出するという快挙を成し遂げました。

上記のような大谷先生の学内，学外の中国語・中国文学教育へのご貢献に加えて，人文学部長

として，もうひとつ深く感謝していることがあります。人文学部では，現在，2025 年度のカリキュラム改訂の準備を進めており，その中で，副専攻プログラムの設定を予定しています。その中のひとつが英語以外の外国語副専攻です。人文学部には，英語以外の語学の専門家は少ないため，実施するには全学のドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・韓国・朝鮮語の先生方にご協力いただく必要があります。先生方に手間をおかけするこのような副専攻にご協力いただけるか不安だったのですが，まず大谷先生にご相談したところ，大谷先生は学生たちの語学学習への意欲を後押しすると大賛成してくださり，英語以外の語学小委員会の先生方と橋渡ししてくださいました。また，ご在職最後のお忙しい一年に，めんどうな時間割の調整作業を自ら担ってくださるなど，最大限のご協力をいただきました。ここに改めて感謝申し上げるとともに，今後の北海学園大学と人文学部の語学教育へのバトンを受け取った責任を感じております。

今後もぜひ，わたしたち後進にご指導ご鞭撻いただきますよう，お願い申し上げます。そして，大谷先生のますますのご活躍を祈念いたします。

大谷通順先生には，本学における多大な貢献に鑑みて，2024 年 4 月 1 日付けで，北海学園大学の名誉教授の称号が授与されることを申し添えます。